

TTK-特定都市河川-通信

～ 特定都市河川指定に向けた説明会を開催します～
～ 第3回検討会を開催しました！～

これまでの河川整備は、堤防やダムを造る「河川の中の工事(ハード整備)」が中心でした。しかし、8月に発生した“千葉豪雨”のように、ハード整備だけでは被害を防ぐことができない、これまで経験したことがない豪雨が全国で相次いでいます。

現在、塩見川水系の特定都市河川指定に向けた取り組みを進めていますが、先行して行う江川流域の特定都市河川指定に向けて、8月25日に第3回江川流域水害対策計画検討会を開催しました。

今回のTTK通信では、この検討会の様子をお知らせします。

今までの取り組みや過去のTTK通信は、こちらからご確認ください ⇒⇒⇒



質問: 江川流域が特定都市河川に指定されるとどうなるの？



お答えします: 浸水被害の軽減に向けた対策が推進されます！

(対策例)

- ・予算の重点配分による河川ハード整備の促進
- ・流域内で1,000m²以上の雨水浸透阻害行為に対し、雨水貯留浸透施設の設置を義務付け
- ・県、市、流域にお住いの皆様が協働したハード・ソフトが一体となった“流域治水”の推進

1 福部町内にお住まいの方等を対象にした説明会を開催します！

江川流域の特定都市河川指定に向けた取り組みに関する説明会を開催します。是非ご参加ください。

< 説明会の日程 >

開催日時	開催場所
11月15日(日) 11:30～12:00	福部支所2階第2、3会議室

同日開催の公民館まつり、防災フェアのプログラムとして開催します

< 説明会の内容 >

- ・これまで開催した江川流域水害対策検討会の概要
- ・江川流域水害対策計画(原案)
- ・江川流域の特定都市河川指定に向けた今後の予定

参加無料
事前申込不要



2 今年度の福部公民館まつり・防災フェアに出展します！

11月15日(日)に開催される公民館まつり・防災フェアに、昨年に引き続き、鳥取県土整備事務所から参加させていただきます。

行政や流域にお住いの皆様が協働しハード・ソフトが一体となった“流域治水”の取り組みについて、体験型の模型展示や動画、パネルなどによりご紹介します。

当日は是非、鳥取県土整備事務所の出展ブースにもお立ち寄りください。



昨年の出展の様子

3 第3回江川流域水害対策検討会を開催しました

日 時:令和8年8月25日(火) 午後5時～午後6時30分

参加者: 地元代表者

(福部町区長会、浜湯山地区、山湯山地区、海士地区)
鳥取市・鳥取県 関係課長等

<議事概要>

以下の内容について鳥取県から説明しました。



検討会の様子

○第2回検討会(7月1日開催)での委員意見に対する回答

第2回検討会 委員意見	事務局回答
河川ハード整備後の湛水時間や浸水深の変化は？	目標降雨において、浸水深30cm以上となる時間が約3割～7割減少、浸水解消は約5～6時間早まる見込み。
遊水地を大きくして、浸水被害を少しでも軽減して欲しい。	遊水地を深くすると、排水ポンプ施設等が必要となり、経費や維持管理の観点から現計画が適切と考えている。
遊水地を複数つくり、床上浸水が解消できないか？	浜湯山地内や駈馳山バイパス高架付近で検討したが、いずれの箇所とも深さ約4m以上の遊水地が必要となる。
塩見川潮止樋門に排水ポンプ施設を整備し、強制的に下流へ排水できないか？	工事中の塩見川の計画流量(毎秒280m ³)を排水するためには、巨額のポンプ設備が必要。その整備は困難。

○遊水地構造(案)及び概算事業費

○ハード対策以外の浸水被害対策案(内容は裏面参照)

○江川流域水害対策計画概要の原案の提示

- ・ 特定都市河川指定後に鳥取県・鳥取市が共同して策定する“流域水害対策計画”の骨子として、これまでの検討会で議論した内容をとりまとめたもの。

○今後のスケジュール

- ・ 11月15日に福部町内にお住まいの方を対象にした説明会を開催。
- ・ 江川流域特定都市河川の指定(令和9年度目標)に向けて、引き続き検討を進める。



<主な質疑応答>

委員意見	事務局回答
小さなポンプ施設を整備して、少しでも塩見川の流れを良くして浸水被害が軽減できないか？	事業中の河川改修が完了した段階で周辺の治水効果を検証しつつ、必要なポンプ施設を検討したい。
先日の千葉豪雨のような想定外の雨も考慮すべきではないか？	予算に限りがあり、想定外に備えたハード整備は困難。想定外に対しては、ソフト対策や避難行動が必要。
目標降雨に対して、床上・床下浸水が完全に解消できない計画案だが、それでよいのか？	塩見川の改修は着実に進み、一部で効果を実感。江川の浸水被害の早期解消に向け、県・市の連携を継続する。
河川ハード整備(案)の総事業費や事業期間はどれくらいを見込んでいるか？	概算の規模感としては、遊水地は8～9億円、総事業費約37億円、事業期間は10年以上を見込んでいる。
河川整備は下流から進めると思うが、上流の遊水地整備は最後になるのか？	最初に遊水地を整備することは可能だが、整備効果を踏まえて、整備の順番を検討する。
浜湯山地内の内水対策として、排水ポンプを検討中。	水害対策計画の原案に盛り込む。

4 江川流域水害対策計画(原案)の概要

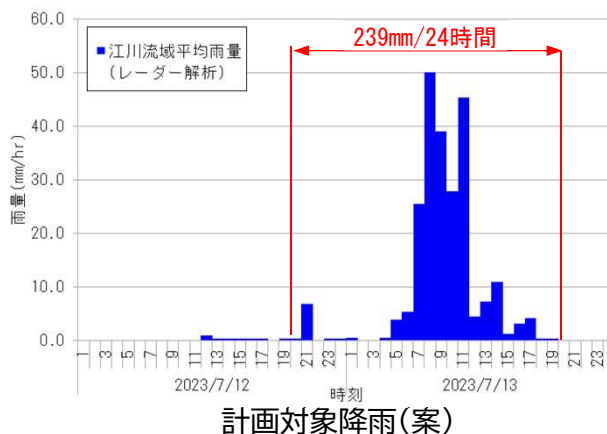
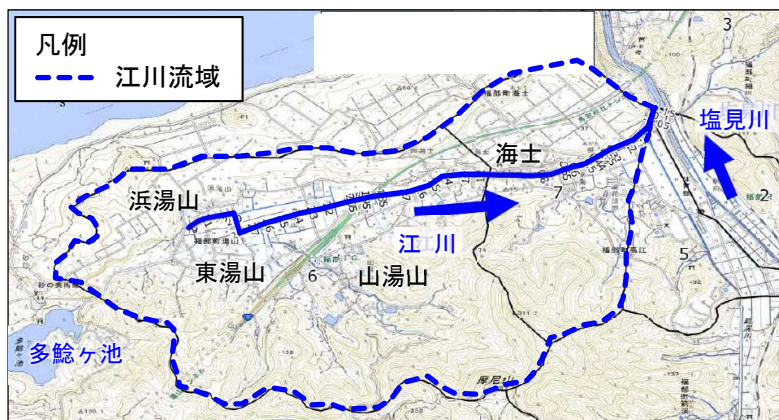


江川流域の浸水の発生を防ぐべき目標とする降雨(案)

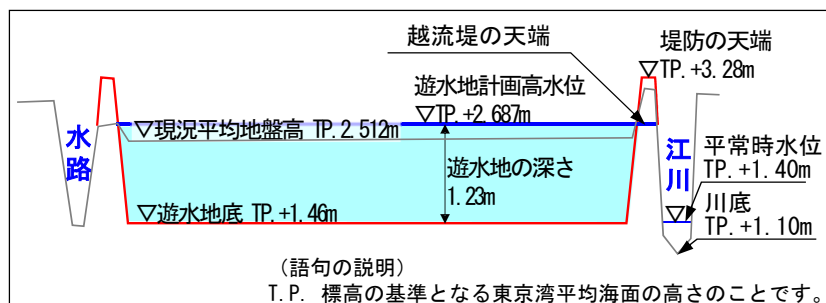
計画目標

令和5年7月豪雨を目標降雨とし、床上浸水の概ねの解消を目指す。

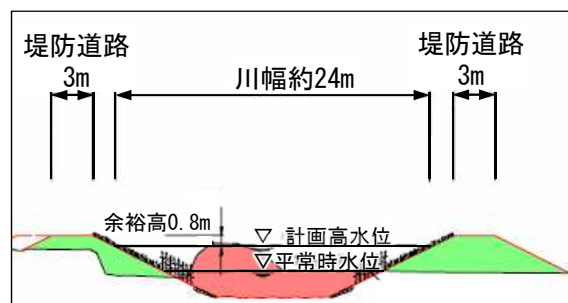
- ・令和5年7月豪雨は、江川流域で近年で最も甚大な浸水被害が発生
- ・江川流域でのレーダ解析雨量 239mm/24時間 を観測(確率規模1/100相当)



鳥取県、鳥取市が行う江川河川整備(案)



参考図1 遊水地の計画断面(案)



ハード対策以外の浸水被害対策案

内水による浸水被害の軽減や貯留能力の向上、雨水が江川に急激に流入することを抑制するために、以下の取り組みを推進します。

■「仮設排水ポンプ設置など」の取組

江川の水位上昇時、接続する地域の水路への逆流による内水被害の軽減対策として、逆流防止ゲートや仮設排水ポンプなどの効果や設置場所、運用方法等の検討を進めます。



仮設排水ポンプの設置イメージ

■「田んぼダム」の取組

排水口に流出量を抑制する堰板等を取付け、畦畔の範囲内で雨水を貯留し、水田の雨水貯留効果を更に高める「田んぼダム」の取組について、県・市で連携し、営農者との合意形成を図りながら推進します。



(鳥取市桜谷地内)



田んぼダム
なし
→排水多

田んぼダム
あり
→排水少

鳥取市内での田んぼダムの取組事例(鳥取県HP) 田んぼダムの効果(福井県HP)

■「雨水貯留タンク設置」の取組

建物の屋根に降った雨を一時的に貯留する「雨水貯留タンク」について、県・市の助成制度の活用をPRすることにより、個人宅等への普及を推進します。

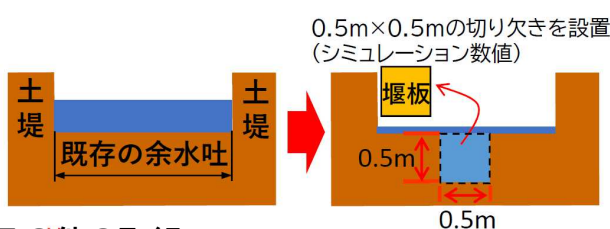
詳しくはコチラ
鳥取市ホームページ



福部総合支所の雨水貯留タンク 個人宅での雨水貯留タンク(鳥取市内)

■「ため池貯留」の取組

余水吐に切り欠きをつくり、普段は堰板を設置して従来の湛水量を変えずに確保し、大雨前に堰板を外して事前放流を実施する「ため池貯留」について、施設更新に併せて実施できるよう施設管理者との合意形成を図ります。



■ その他の取組

用水管理者とも連携し、洪水時は、多鯰ヶ池から湯山地区への農業用水量を調整する対策を継続実施します。

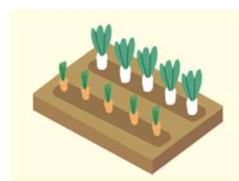
雨水浸透阻害行為の事前許可制

雨水浸透阻害行為に該当する1,000m²以上の行為に対しては、流出する雨水量の増加を抑制する対策工事を義務化し、鳥取市長への事前許可制とします。

[雨水浸透阻害行為とは?]

雨水が地中にしみ込みにくくし、流出する雨水の量を増やすおそれのある行為のことです。

雨水浸透阻害行為の例



耕地



→ 駐車場